

●焦点

このごろの農業をとりまく情勢は、非常にきびしいものがあり、市の場合でも、米の生産調整、施設園芸における産地間競争の激化、果樹・畜産のいま一つの伸び悩み、あるいは都市化の進展による農地の破かいなど、いろいろな問題が起り、ますます農業がやりにくくなっています。

そこで、総合的に農業の振興をはかり、農業の健全な発展を目標として、「農業振興地域制度」という施策が出され、昨年十二月、後免町周辺の市街化区域と黒滝から北の大森林地域を除く、およそ一、五〇〇ヘクタールが、果から農業振興地域の指定を受けました。市では、この制度にもとづき、ことし中に、南国市農業振興地域整備計画をつくり、これからの農業の基本計画としていくことになっていきます。

この制度の中で、最も基本となることは、今後とも農業を続けていく地域（「農用地」と）と、そうでない地域を区分するところにあります。このため、この制度がこ

では、この制度について、もう少し詳しくみてみましょう。市街化調整区域と農業振興地域と農用地との関係

市街化調整区域……新都市計画法による市街化を抑制する区域。市では、この区域は、すべて農業振興地域に含まれています。

農用地が決められると農業振興地域整備計画をたてて、各種の農業施策が行われます。



これがらの農業の基礎

農業者の積極的な参加を……

農地保有の合理化計画 農業経営の規模拡大、農用地の集団化をすすめるため、農用地の移動あつせんなど権利取得をスムーズにする事業

農業者の積極的な参加が望まれています。

農業振興地域制度

これからの農業の基礎となるとも、農家にとっては大変密接な関係のある計画であるだけに、積極的な協力が望まれています。

農業振興地域……自然的、社会的、経済的にみて、農業の振興をはかることがよいと思われる地域。市では、市街化区域と黒滝から北の大森林地域を除く、残り全部です。

農用地の利用計画 区域内の土地の利用区分と長期（おおむね十年）にわたる優良農用地の確保と開発

農用地になると……



これはめずらしい

三光鳥(サンコウチョウ)

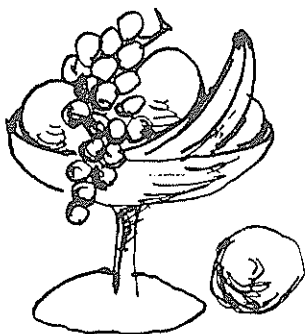


こんなところに……よくみるとかすらの中ほど、サーカスよろしく湯のみぐらいの果が……発見者 北岡和夫さん(天行寺)

天行寺の里は、鳥獣にとつて天衣無縫の別天地。鳴き声が月日星(つきひぼし)と聞こえるところから、この名のついたという三光鳥。紫黒色の優雅な姿を謡(うた)歌していた。

◆◆◆今月のページ◆◆◆

★焦点・農業振興地域制度……………(3)
広報座談会
有線放送のあり方を考える (5)
【解説】この座談会の背景……………(4)
統計にみる老人福祉
理想の老人、 利岡富次(教育長) (9)
あの人・この人 北村美義(永田)



9月

猛烈な暑さも過ぎ、朝夕は身に涼しさを感じるようになりました。

1日 防災の日
わか国は諸外国に比べて、気象変化がきわだっています。

これは、わか国が高気圧や低気圧がひんぱんに通る中緯度にあつて、しかも台風の通路にあたり、かつ、アジア大陸と太平洋の境目に位置しているためです。この日は関東大震災の記念日と、台風シーズンに当たるところから防災の日と定められたものです。

1日 性病予防週間
7日 性病予防週間

最近、性病患者が増加しているといわれます。性病は恐い病気です。結婚時、妊娠時には必ず血液検査を受け、将来の健全な家庭を築きましょう。

1日 二百十日
11日 二百二十日

台風のシーズンです。懐中電燈、ろうそく、トランジスタラジオなどを用意し、窓や雨戸などは板をあてて釘で止め早めに補強しましょう。

かけ地の附近の人は、かけ崩れに十分注意することが大切です。

備えあれば憂いなし。憂いがあったても、被害が少なくて済みます。

24日 結核予防週間
30日 結核予防週間

結核の恐怖は日々薄らいでいる、これが実感でないでしょうか。不治の病と恐れていた当時より見て、まったく雲泥の差があります。

それでも軽視してはいけません。